はじめに

香川県勤労者山岳連盟は 1967 年4月 11 日に結成され、2017 年 4 月で創立 50 周年を迎えます。

四国では唯一「救助隊」を組織し遭難事故対策に取組み、愛媛県からの参加もあり四国内では他県をリードする立場にあります。また、地域的な登山者教育を目的に関係自治体の協力・後援を得て毎年「初級登山学校」を実施し、安全対策・登山者教育の活動に取組んでいます。自然保護活動としては、6 月「全国一斉清掃登山」、11 月「五色台クリーンハイキング」に取組み香川県および関係自治体等から認知され、県連としては大きな財産となっていますが、清掃登山にとどまっており、近県の自然保護活動を鑑みて今後の活動を考える時期になっていると思います。

半世紀の会員数の推移を見ると 1993 年には 457 名まで達しましたが、1995 年ひまわりハイキングクラブの脱退以降、大規模クラブの会員減少もあり 1998 年からは右肩下がりに減少が止まらず 2010 年には 287 名まで落ち込みました。その後、2012 年さかいで山の会の加盟を契機として 325 名まで回復しましたが、2014 年 9 月しわくハイキングクラブが脱会し 250 名程度まで落ち込んでいます。

この原因としては、会員数増加時にはハイキングクラブの大規模化により会員数が増加しピークに達した頃、連盟費の値上げ、会員の高齢化により会が活性化されない等の理由により会員数減少に転じました。また、県連の役割が分からず加盟する意義が見出せないまま会が脱会したことにより、さらに会員減少に拍車がかかったと考えられます。各会が１名でも増やす目標を設定し会員拡大に取組み、全体として底上げしないと解決できないところまで来ています。

この状況を踏まえて、会の活性化と県連の役割を明確にすることが重要であり、最近あまり耳にしなくなった「労山活動」とは何か、なぜ県連活動が必要なのかを議論し、労山活動の理念が書かれている「趣意書」や「規約」を学ぶ原点に立ち返ることも重要であると考えます。

このため、県連創立 50 年記念レセプションや記念誌の発行等を実施し、50 年の節目を契機に各会と県連が一体となり飛躍できるように各会が結集して、今までの活動結果を振返り、労山活動の理念を見直すための活動を行います。

県連は「山登り」のための組織ですが、いつまでも安全に楽しい登山を続けるため、各会や会員が「たかが県連、されど県連」の思いを一つに結集し「労山活動」を進め、各会が発展できるよう県連への協力を呼びかける次第です。

香川県勤労者山岳連盟会長　阿部　哲也